第 140 号
発行者
東筑摩塩尻教育会
編集者
会誌会報委員会

トンネルの出口に立つ今

東筑摩塩尻校長会長　佐倉　俊

令和五年度は、学校における教育活動に大きな影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症が、五類感染症に移行され、学校では、マスクをはずしての合唱や、調理実習ができるようになったり、黙食の必要もなくなったりするなど、教育活動が、コロナ前に戻ってきた年になりました。

子どもたちが生き生きと活動する行事も戻り、四月、多くの中学校では、二泊三日の奈良・京都への修学旅行に行ってくることができました。私の勤務する塩尻中学校では、令和二年度、三年度、四年度の三年生が行くことのできなかった奈良・京都への修学旅行でしたので、当時の三年生に心を寄せながら、行ってきました。実は、今年の三年生も、小学校六年生の時に修学旅行に行くことができなかった子どもたちでしたので、本当にうれしそうでした。その姿を見て、私たち、教員も本当にうれしく感じました。

また、多くの小学校では、運動会を行うことができました。今年の運動会は、一年生から六年生の全校が集い、多くの保護者、地域の方々が見守る中、マスク、距離などの制限なしに、玉入れ、ダンス、組体操などの競技とともに、応援が元気よく行われました。私も、塩尻東小学校の運動会を参観させていただきましたが、五、六年生の組体操では、このコロナ禍三年間の苦しかったこと、しかし、それをみんなで乗り越え、今があることが、メッセージとともに表現され、子どもたちのたくましい姿に、感動し涙しました。

このような子どもたちの姿に触れ、ようやくコロナ禍というトンネルの出口に立つことができているのかなと感じると同時に、子どもたちの健やかな成長には、子ども同士の触れ合いを基盤とした集団的な活動や体験的な活動、多様な人と交流する豊かな体験活動が欠かせないと、改めて感じました。

思い返せば、令和二年二月二十七日、内閣総理大臣からの全国一斉臨時休業の要請、緊急事態宣言、卒業生のみの卒業式、という、出口が全く見えないトンネルの入口に、私たちは立たされました。その後も、分散登校、対面授業とオンライン授業の併用、繰り返される学級閉鎖・学年閉鎖など、学校は、今までの経験が全く通用しない状態に追い込まれました。しかし、各校では、令和元年度、二年度、三年度、四年度在籍の先生方や子どもたち、保護者、地域の方々が力を合わせ、この困難な状況に立ち向かい、乗り越えてきました。そして、様々な関係者の方々から、たくさんの激励、応援をいただき、今があります。

このように、トンネルの出口に立つことができたところですが、コロナ禍前の入口の状況とは、同じではありません。

この間、全国的にも塩筑も、不登校児童生徒が増加したり、一人一台端末の整備が前倒しされ、教育環境におけるデジタル化が一気に進んだりと、コロナ禍以前の学校や教室とは、大きく異なる姿になっています。さらには、令和の日本型学校教育や部活動の地域移行の実現、働き方改革の推進などの諸課題が山積みしています。

このような学校の状況下に対して、私たちはどうしていけばよいのでしょうか。コロナ禍の出口に立っている今、私たちは、不登校児童生徒の支援の在り方や部活動の意義が問われているだけでなく、「そもそも学校は、何のためにあるのか」、学校の存在意義が問われているように感じています。私自身も、その答えは分かりませんが、単にコロナ禍以前の姿に戻るのではなく、これまで制限されてきた学校教育活動のうち、多様な人と交流する豊かな体験活動など、真に必要なものを回復させるとともに、ＧＩＧＡスクール構想の下で生み出されてきた多様な教育実践の工夫を取り入れることにより、いわば新しい学びの在り方へと進化を図っていくことが求められていると思います。この点について、私たち教員それぞれが考え、実践し、お互いの実践を学び合い、高め合っていくことを、各校で、また教育会の場で行っていくのが、トンネルの出口に立っている「今」だと思います。

特集　ポストコロナ期における新たな学びのあり方

主体的な学びに向かう授業づくり
～効果的なICT活用とは～

片丘小学校

本校の今年度の研究テーマは「主体的な学びに向かう授業づくり」。今年度は研究部会を立てず、自己課題に向かって、〝個人研究〟として進めるという新たな試みに取り組んでいる。

その中で、ICT活用への課題や期待を持ち、自己課題として掲げている先生方がかなり多かった。これは、まさに〝ポストコロナ期における新たな学びのあり方〟として、ICT活用が、子どもたちが主体的に学ぶ姿につながる手立てやツールになるのではないかと考えているからだろう。

私自身も自己課題として、「子どもたちの対話で深まる授業づくり　～子どもの伝えたい・聞きたい思いを引き出すための場の設定とは～　①効果的なICT活用②発問・板書の工夫③地域とのつながり④指導と評価の一体化」を掲げた。

〝「主体的な学び」＝「対話があり、対話で深まっていく授業」なのではないか。対話のある授業にするには、子どもの伝えたい・聞きたい思いを引き出す場の設定が必要なのではないか。その手立ての中の一つとして、効果的なICT活用があるのではないか〟と考えたからだ。

今はまだ試行錯誤の段階ではあるが、子どもたちが主体的な学びに向かう授業づくりのために、本学級三年生で行ったICT活用の実践を紹介する。

【塩尻市の〇〇を紹介しよう】

社会科「わたしたちのまち　みんなのまち」の学習の単元のまとめとして、塩尻市のいいところや特徴など、一人ひとり調べたいことを選び、最後にクラスのみんなで発表しあうことにした。最初はまとめる方法として、社会科新聞形式か、画用紙に写真を切り貼りしポスターのようにしようかと考えていた。どのような方法を使えば、子どもたちが伝えたいことをまとめて、友だちに伝えられるのだろうか。コロナ期以前だったらこの二つの選択肢だが、今はタブレットがある。この授業の少し前に、校内の情報週間で、ロイロノートにインターネット上の写真や地図などを、貼り付ける方法を学んだばかりで、その時の子どもたちはとても前向きに楽しそうに取り組んでいたことを思い出した。絵や字をかくことが苦手な児童も、楽しく取り組めるのではという期待も込め、今回はロイロノートを使うことに決めた。

子どもたちのICT技術の吸収はとても早く、自分の調べることを検索し、伝えたい文章や写真をロイロノートに貼り付け、レイアウトしていった。インターネット検索をする際に、漢字が読めずに困っている様子は見られたが、それ以外は三年生でも問題なく取り組めることが分かった。そして何より子どもたちが多くの情報を自分で選び、自分で好きにカスタマイズし、間違えてもすぐに訂正できることから、〝まずやってみよう！〟という気持ちになれるのだということを子どもたちの姿から感じた。絵や字をかくことが苦手な児童も、進んで取り組んでいた。また、写真を使えることから、パンフレットのような本格的な仕上がりになり、班や全体に発表している様子から子どもたちが自分の作品に自信を持っていることも感じられた。

「主体的な学びに向かう授業づくり」への手立てとして、ICT活用の有効性は、日々の授業の中で実感している。本校の五学年では、算数の授業の中でグループでの話し合い活動で考えをまとめたり交流する際にロイロノートを使用したり、六学年では道徳の本時の問いを立てる際に、資料を読んで自分の考えたいことをそれぞれロイロノートに書き込み、共有し、道徳の授業をスタートするという実践も行っている。子どもたちがより「主体的に」「楽しく」「友と関わりながら」学習に向かえるよう、今後も実践を積み、教師間で情報交換しながら効果的なICT活用を進めていきたいと思う。

子どもたちの作品と班での発表の様子

ポストコロナ期における新たな学びのあり方

筑北小学校

筑北小学校は、令和二年度旧筑北小学校と坂井小学校が統合してできました。旧筑北小はその数年前に本城小と坂北小の統合を行っています。その経験を基に、統合前年度は統合を見据えて両校での交流が行われていました。統合を控えた三月に政府の休校要請があり、四月コロナ禍での統合となりました。入学式後すぐに休校、分散登校と続いたため、交流を深めてきた子どもたちは、一緒に生活をスタートさせ、よりつながりを深めていく大切な時期をコロナ禍で過ごしたことになります。統合四年目となった今年、学校生活も通常に戻り色々な活動ができるようになってきました。

Ⅰ．本校の教育目標

㋐づける　㋑ながる　㋒信を持って輝く（つつじ）　＊つつじは村花

Ⅱ．教育目標具現のための活動

①　つながる時間…本年度は水曜日の掃除を無くし、帰りの会の後から下校までにできた時間を「つながる時間」としました。十五分という短い時間ですが、子どもたちがのびのび活動し、遊びなどを

夢中で楽しむ時間となっています。最初は学級内での交流でスタートし、今は連学年での交流を行っています。今後姉妹学級、縦割班等、活動の幅を広げていきます。また縦割清掃の回数や期間を増やしました。コロナ禍では、他学年との交流も制限されていた子どもたち。これらの活動を通してクラスの仲間以外の仲間と触れ合う体験を大事にしています。

② 全校らんらんタイム…本校は多くの子がバス登校をしており、歩く距離が短いことが健康課題としてあげられています。そこで水曜日の朝行事を「らんらんタイム」とし、全校一斉に校庭を走っています。校庭を走った周数に合わせ学年毎シールを貼っていくことで、達成感を味わっています。

③ 読み聞かせの充実…コロナ禍で、図書館へ行くことが少なくなり、読書離れが進んでしまいました。コロナ以前から地域の方に月一回の読み聞かせをしていただきましたが、今年はそれに加え先生方の読み聞かせも行っています。違う学年の担任や専科・支援の先生の読み聞かせを行うことが、子どもたちの読書の幅を広げることにつながればと願っています。

Ⅲ．学習の中で

① ＩＣＴの活用と学び合い…リモート学習の経験から、子どもたちがタブレットを使用する技能は向上しました。本校では主にロイロノートを利用し、各自のノートに送られた課題を考えたり、送られた動画のアドレスの中から自分の考えに必要な動画を視聴したりするなどして、考えを深めています。ＩＣＴ支援員さんの協力もあり、全校で学習のひとつのツールとして活用を図っています。

② ペアやグループ活動…外国語活動ではＡＬＴや友だちのことをもっと知りたいとペアになった子と互いに目を合わせたり、ジェスチャーを加えたりしながら学習を深めています。もっと知りたいという目的意識が、外国語を使って話したいということにつながっています。

③ 音楽の実践から…私は音楽専科を担当していますが、創作の活動や発表の場でＩＣＴ機器を活用しています。子どもたちが友だちの作ったリズムを自分で試している姿から、音楽を楽しむ様子が見られました。また、全校音楽ではコロナ禍には取り組めなかったジェンカやポーレチケなどの遊び歌を取り入れて、他学年と関わり合いながら音楽の楽しさを味わう活動を行っています。

全校でジェンカ

Ⅳ．外部とのつながり

北部の三小学校ではオンライン交流を行ってきましたが、今年は麻績小学校・生坂小学校の児童と実際に顔を合わせて一緒に活動をしています。互いに小規模校であるので、人間関係の輪を広げたり、刺激を受けたりするよい機会となっています。

学校全体として、今後は他者・地域に発信する場を設定していきたいと思います。特にふるさと学習では、地域のことを実際に調べに行ったり、地域の特産物の栽培に取り組んだりしています。自分たちの学習を発信することで、「伝える力」や「自信」を発揮し、それを自己有用感や自尊感情を育むことにつなげていきたいと思います。

つながる時間

ポストコロナ期における新たな学びのあり方

両小野中学校

本校は全校生徒六十五名の小規模校であり、行政区は異なるものの、保育園・小学校・中学校が「両小野学園」として位置づいており、グランドデザインも「学園教育目標」として掲げてお互いに連携を深めながら教育活動に取り組み、地域とのつながりが深い。そのため、保小中の交流に関わる行事も多く、教職員も各校の職員会だけでなく、「学園としてどのような共通認識の下で児童・生徒の指導・支援に携わっていくか」を話し合う学園職員会を年四回行っている。

しかし、新型コロナウィルス流行に伴い、流行発生当初はこういった行事が軒並み中止となってしまう事態であった。

新型コロナウィルス感染症が五類となった現在では、このような行事も少しずつ復活してきているが、未だに保育園との交流など、復帰のタイミングを見計らっている教育活動もあるのが現状である。

このように、学校現場に大きな影響を与えた新型コロナウィルスの流行であったが、これによって教育現場のあり方もだいぶ変化が見られてきた。

まず、他校の多くも同じだと思うが、大きく変化した項目として「ＧＩＧＡスクール構想」の実現である。

生徒一人一台端末を活用した新たな学びが始まった。ただ、生徒が授業で端末を活用するということは、教師も端末活用の知識が必要となってくる。このＧＩＧＡスクール構想が始まった当初は授業での活用に向けた端末の技能や知識の習得に苦労された先生方も多かったが、研修会への参加や同僚の教員からの支え、そして自身の努力によって、年を重ねるごとに授業でタブレットを活用した授業風景が増えてきた。

このような試行錯誤を経ながら、コロナ期においてＩＣＴを活用し生徒の学びにつなげようとした本校職員の実践事例を踏まえ、今後も活用可能な学びのあり方について、紹介したい。

一　話し合い活動の場面において

（社会科の実践）

社会科において、個人追究の時間を増やすためにクロムブック（タブレット）のクラスルームとロイロノートを使い、話し合いと同じくらい個人追究できる時

間を確保できるように実践してきた。コロナ禍のときは個人追究の時間を大幅に増やし、個人追究できる時間が増えたことで、得た知識を深めることができる生徒が増えたような実感がある。

二　個人追究の充実に向けた取り組み
（保健体育科の実践）

コロナ期は三密を避けるということもあり、特に体育では感染するリスクが高かったので、個人追及の時間をどのように行っていくか考えて実践を行ってきた。その中で実施したのが、なわとびであった。小学校や授業の導入等で今までも実践してきたが、コロナ期の制限された中で、しっかり体を動かすことができる種目として改めて取り組んでみた。色々な跳び方にチャレンジしたり、長い時間跳ぶことにチャレンジしたりと短い活動のなかでも達成感が味わえるように考えて活動に取り組んできた。

現在でも、授業の導入や、体つくり運動の中でなわとびを取り入れている。コロナ期にはできなかった二人や三人で同時に跳ぶこともチャレンジし、一人では得られない仲間同士の関わりが生まれ、たくさんの笑顔も見られている。

三　表現活動の充実に向けた取り組み
（英語科の実践）

コロナ禍で対面での活動が制限される中、自分の考えを英語で表現・発表する方法を口頭中心から、ロイロノートなどのデジタル端末での間接的なものに変えて取り組んできた。コミュニケーションの目指すべきは、口頭での直接的なやりとりであるとは思うが、支援を要する生徒には、それがかえってストレスになっている場合もある。そのような生徒にはこのようなＩＣＴ機器を活用しての表現・発表活動をすることが効果的であった。

四　生徒自身の学習に対する意欲の向上
（生徒会・他）

コロナ禍でオンラインを経験したことにより、「ロイロノート」の使用が活発になった。これにより、教師が授業等で活用するだけでなく、生徒自身が自らの活動にタブレットを積極的に使う場面が増えてきた。例えば、生徒会でのアンケートをロイロノートのアンケート機能やグーグルフォームを活用して実施したり、自分たちでお互いにテスト対策問題を作成して出題しあったりする姿などである。また、ロイロノートに慣れたことで、校外学習の係案や旅行記なども形式が整った形で提出され、生徒同士の情報共有も進んで行う姿が見られた。また、生活記録などをロイロノートで書いて提出という活動では、なかなか普段は文章を書くことが苦手な生徒で内容豊富に書くことができている生徒が見られた。

以上が本校における「ポストコロナ期における新たな学びのあり方」である。他にも、ＩＣＴ機器に関わる活用として、休みがちで学習に不安を感じている生徒が家庭での学習を行ったり、なかなか自分の気持ちを言葉で表現できない生徒が、タブレットの入力を通して自分の気持ちを相手に伝えたりして、学びにつなげる姿も見られている。今後はこのような実践を学校間で共有し、本校の生徒や地域の実態に合う学びについて更に深めていきたいと考える。

会員意識調査アンケート結果より

会員参加でかつ会員の互助となるよう、先生方の働き方改革への工夫の調査・共有を目的としアンケートを作成しお願いたところ多くの先生方にご回答いただき感謝申し上げます。いただいたご意見の一部をご紹介します。

○働き方改革として取り組んでいること

・CSSに業務を委託する
・教材の再利用
・早く帰宅
・定時退勤日の設定（リフレッシュフライデー・クリエイティブホリデー）
・会議・行事の精選
・日課の変更、授業時数の見直し
・ICT化…連絡等をC4th・クラウドの活用・ペーパーレス
・放課後の時間を学級事務に
・二学期制（学年だよりを隔週化・通知表二回）
・業務・公務分掌の分散化（見直しも含む）
・職場内の関係づくり

ちょっとしたことからとりくんでいらっしゃいますね

○勤務時間内で仕事を終わらせるために工夫していること

・計画的に進める　To Doリストを作る
・優先順位をつける（時間があるときに先の仕事をやる）
・ICTの活用
・時間で帰る
・朝早く来る
・すき間時間、空き時間の活用
・次の日にできることはやらない
・必要のないことをやめる提案
・整理整頓
・教育課程の簡略化

自分の仕事の自己マネジメントですね

○こんなことで仕事が効率化した！　のアイディア

・ICTの活用…週暦、日報のリンク・タブレット・エクセル
・教材や資料をロイロで共有
・意見の提案
・こもる
・チームで協力、同僚との協力
・整理整頓
・To Doリスト作り
・宿題をタブレットで

○時間の使い方で工夫していること

・時間を決めて
・見通しをもって　優先順位をつけて
・持ち帰り仕事の併用
・朝早くから仕事
・やることリスト
・休むとやるのメリハリをつける
・遅くまでやらない
・仕事に集中
・平日の出勤・退勤時間のために土日に調整
・適度の休憩

効率化＋時間のマネジメントですね　仕事の仕方やタイプで工夫されています

○働き方につながるような休日（または仕事以外の時間）のリフレッシュの仕方

・趣味
・旅行　・スポーツ　・好きなことをやる　・ガーデニング　・温泉　・ライブ活動　・登山　・カフェ　・ドライブ
・読書　・fpsゲーム　・映画鑑賞
・他業界の方々との交流　・読書　・ジョギング　・神社仏閣巡り　・お酒を飲む　・アウトドア　・音楽鑑賞　・ジム
・サウナ　・のんびり外出
・畑仕事・家庭菜園
・おいしいものを食べる
・コンサート、お芝居に行く
・家族と過ごす
・友だちと会う
・仕事のことを考えない
・オンとオフを意識
・よく寝る
・部活のついでに仕事を少しやる

様々な方法でリフレッシュされていますね　参考になります

❖❖❖　編集後記　❖❖❖

今回の会報は、コロナ後の学校生活の変容や先生方の工夫や実践、私たちの働き方改革への意識調査から学ばせていただこうと編集をさせていただきました。

お忙しい中、ご寄稿くださいました皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。